

埼玉親善大使・フィンドレー大学奨学生レポート⑥（1月） 「ハンドリングダメージトラッキング」

近年稀に見る寒波に襲われ、フィンドレー大学の春学期は遅めのスタートとなりました。依然気温は低いままですが徐々に雪かきにも慣れ、順調に新学期を過ごしています。

さて、第6回目となる今回のレポートでは春学期の英語クラスの授業及びインターンシップでのプロジェクトについて紹介したいと思います。

■ 英語クラス

春学期が始まり、今私は IELP（留学生向け英語クラス）の最後の段階である Lv5 を受けています。これは留学生の中でも特に修士課程を目指す学生向けのクラスで、その内容も学术论文の読み書きが中心になるなどより高度なものになっています。

私は前学期に引き続き Composition（作文）と Reading（読解）の2クラスを受講し、それに加え今学期は Grammar（文法）のクラスを選択しました。ここで文法を選択したことにはいくつか理由があります。

一つ目の理由は文法の重要性について秋期に説明を受けたからです。「正しい文法はその情報の信頼度を高める」ということを作文の講義で強調されました。これは作文に限らず英語を使うあらゆるシチュエーションで言えることだと思います。私はあまり文法に自信が無く、とっさに話そうとすると混乱してしまうことも多いのが悩みでした。そういった背景もあり、今後英語の論文に触れ実際に書くことになる前にもう一度再確認したいという気持ちがありました。

二つ目の理由は、英語を母語とするアメリカ人の視点が、文法のルールやニュアンスをどう捉えているのかということに興味があったからです。実際に春学期の講義が始まり、文法のクラスではこれまで日本の英語の授業では聞くことのできなかつた様々な違いについて触れることができ、決して初めてではないはずの文法にも関わらず新鮮な気持ちで授業を受けています。

■ ハンドリングダメージトラッキングプロジェクト

インターンでは、先月からハンドリングダメージトラッキングというプロジェクトを続けています。これはラインでの加工・亜鉛メッキ・検査のプロセスでNGと判定された部品が、どのプロセスでどの部位の傷が原因でNGとされたのか、及びその傷のついた原因の内訳をまとめるものです。私と奥村君はブレーキのキャリパーボディーという部品について調査を行いました。

私達が最初に行ったのは、調査票を印刷し調査対象の部署に行き記入を促すというものでした。しかしその結果ほぼ全くデータを集めることができませんでした。NG部品はあったにも関わらず、ほとんど誰も調査票に記入していなかったのです。私たちの調査は開始直後に暗礁に乗り上げました。

困っていた私たちがインターン活動の定期報告の際にアドバイザーの川村先生とクリス先生に報告をした所、アメリカ人と仕事をするについていくつかのアドバイスを貰うことができこの問題は解決に繋がりました。

一つ目は「仕事が増えることは誰でも避けたがる」ことでした。私たちの調査は現場で作業をしている人達にとっては「余計な手間」であり、可能であればやりたくはない作業です。そういった背景を考え、調査票にチェック欄を作り記入を省略できるようにする、書きやすく分かりやすい紙面構成にするなど少しでも手間を省くことができるよう工夫を加えました。

二つ目は「人はよく知らない人の為に働きたくはない」ことでした。当初の私たちは簡単な説明のみで作業をしている方たちとあまりコミュニケーションを取っていませんでした。それを改善する為にまず調査の概要と調査票の記入方法を図解した説明書を作り、そこに私たちの名前を書き依頼主である上司のジェリーさんと協力してくださったマットさんにサインをもらいました。これは誰がこの調査に関わっているのかを明確にするためです。そして説明書を見せながら、現場で作業をしている方たちに調査の目的やこういったデータを必要としているのかについて詳しく説明し、個別に依頼をしました。

こうした努力の結果、だんだんと記入された調査票の数は増えていきました。一番大きかったのはやはりコミュニケーションの影響だったと思います。その日の作業者に詳しく説明をした上で依頼することで、ただ調査票が集まった



現場の方に頂いたNGパーツのサンプル

Official Survey of Handling Damage

Damages of products has not been decreased. The problem relates to not only company's profit but also all associates salary directly.
Therefore, we would like to know the **detailed** reasons of damage.

This survey will be continued until end of January. **Just only 4 reporting sheets are needed in a day!**
It is distributed every Tuesday and Thursday morning.
Caliper engineers will collect reporting sheets 3:00 P.M. in these days.
Thank you for your cooperation.

Jerald (Jerry) Lenning (Caliper Senior Staff Engineer)
Matthew (Mat) Slesman (Quality Coordinator)
Substitutors: Tomoko Mizoguchi, Seiji Okumura

Reporting Sheet of Damage		Comments
Section: M/C Operator	How did the damage occur? Unsettling damage, Dropped, etc.	
<input type="checkbox"/> Other Handling Damage <input type="checkbox"/> Dropped on Floor <input type="checkbox"/> Other Damage <input checked="" type="checkbox"/> Other Parts <input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> Other <input type="checkbox"/> Dropped <input type="checkbox"/> Other Products <input type="checkbox"/> Handling Damage on Machine <input type="checkbox"/> Other	NAME: Jeff Johnson DATE: 12-12-2013 LOT No. 3886cd

Instruction

1. Please fill in date, your name and Lot Number.
2. Check the position of the damage.
3. If you find same type damage, Please fill in the damage products number
4. Check the reason of the damage.
5. Please write your comments opinion, etc.

作成した指示書

けではなく時には指示書の改善点などのフィードバックも貰うことができました。また普段接点の無かった他のラインの方と話すことで、その方が分からないことでも他の方を紹介してもらうことができ、多くの方の協力を得ることができました。

今回私達が行ったのは調査・集計のみで、具体的な解決策にまでは至りませんでした。しかしその過程で得られたものは大きかったと思います。クリス先生はアメリカ人にはそういったアプローチが必要、と仰っていましたが、これは決してアメリカ人に限った話ではないと感じました。仕事において、「相手にとって心地よい環境を整えるということはお互いにとってよりよい結果を生む」という良い経験になったと思います。